

2024年05月07日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【巨額の資金を使わなければ、相場は動かない】

先週の月曜日(2024年4月29日)は、祝日「昭和の日」で東京外国為替市場は休場。

そういった状況下で、先週の月曜日(2024年4月29日)の日本時間の午前中に、ドル/円は160円台前半に上昇した。

ところが、この日(2024年4月29日)の日本時間の午後に、ドル/円は155円台に大きく急落した。

155円台から、いったん157円台に急上昇したが、そこ(157円台)から、再度大きく急落し、安値を更新して155円を割り込み、154円台を付けた。

先週の月曜日(2024年4月29日)の夕方、財務省の神田財務官は、「為替介入の有無については、ノーコメント」と述べている。

※後日の報道を見ると、5兆円規模の介入が実施された可能性が高い。

++++  
++++

大量(巨額)の資金を使わなければ、相場は動かない。

『ニュースだけで、相場が動く』と言う人がいるが、それは、『ウソ』だと考えている。

ニュースに基づいて、大量(巨額)の資金が動くから、為替レートも動くのだ、と考える。

そもそも、先週の月曜日(2024年4月29日)には、特段のニュースも出ていない。

だから、ニュースで動いた訳ではない。

先週の月曜日(2024年4月29日)は、誰かが、大量(巨額)の資金を使ったから、ドル/円が160円台に上昇した訳で、そして、160円台から154円台に急落した際にも、誰かが、大量(巨額)の資金を使ったはずだ。

++++  
++++

先週（2024年4月30日、5月1日）のFOMCでは、政策金利据え置きを決定した。

6 会合連続での政策金利据え置き。

インフレについて、再び懸念していることを示唆し、利下げを開始するには、物価上昇ペースが鈍化していることを示すさらなる証拠が必要とした。

++++  
++++

5月1日のFOMCでの政策金利据え置き発表後、30分ほど経過すると、ドル/円は、大きく急落した。

先週の月曜日（2024年4月29日）を思い起こさせるようなドル/円の急落。

158.00 近辺から、152 円台に大きく急落した。

再び、「為替介入」が実施された模様。

FOMCの発表後に、「為替介入」を実施したのは、米国に対する日本側の配慮と考えます。

++++  
++++

(2024年05月07日東京時間13:50記述)